

ART KISS LETTER

TITLE

やなせたかし展
人生はよろこばせごっこ

DATE

2025

4.26^土 / 6.30^月

開館時間 10:00-20:00

休館日 火曜日

人生はよろこばせごっこ

やなせたかし展

人生はよろこばせごっこ やなせたかし展

熊本展限定の音声ガイドに収録した作品解説の載録です。

作品鑑賞の一助となれば幸いです。

(執筆:熊本市現代美術館学芸員 富澤治子)

漫画「ボオ氏」



「ボオ氏」より「鳩とトビウオの巻」1967年

1967年、やなせたかしは、雑誌「週刊朝日」の懸賞漫画に応募しました。グランプリに入選したら賞金100万円と、半年間のマンガ連載の権利を得ることができます。当時プロの漫画家だったものの、代表作がなく自信を失っていたやなせ。このような懸賞にプロの漫画家が応募することはほとんどなく、落選したら恥ずかしいと悩みながらも、これをチャンスと決意して実名で応募し、見事グランプリを受賞しました。

受賞作のコマ漫画「ボオ氏」の主人公は、スーツに蝶ネクタイ姿です。そして、帽子を深くかぶっていて、顔も表情も見えません。何者でもない、どこかのだれかを指す「某氏」と、かぶっている「帽子」をかけて「ボオ氏」。ユーモアがあります。この漫画は、「ボオ氏」がシュールでファンタジックな出来事に遭遇する様子が淡々と描かれていて、その淡々とした様子に面白みがあります。シンプルゆえに際立つ作画の画力と、ショートストーリーならではのセンスの良さが見どころです。

やなせ自身が「パントマイム漫画」と称したこの漫画にはセリフが一切なく、世界共通で楽しめるものを目指して描かれました。この漫画で誕生した「ボオ氏」のキャラクターは、「週刊朝日」の連載後も、様々な媒体で描かれ、やなせの代表キャラクターとして長く活躍します。

タブロー作品

《ドキンちゃんとかびるんるん》



展示風景

やなせたかしは、ドキンちゃんの役どころを、映画「風とともに去りぬ」のスカーレット・オハラに例えています。かわいくて美人でわがまま、生意気、意地悪で、でも目が離せない存在ということでしょうか。また、カビのお化けのかびるんるんは、「このキャラは傑作と自分で思う」と言うほどでした。数も多く、3色のカラーバリエーションがあって、さらには機械を操縦したりと、割となんでも出来るキャラクターとして有名です。

この作品に登場するシルクハットに網タイツと、セクシーなコスチュームでスポットライトを浴びるドキンちゃんと、バックダンサーとしてムードを盛り上げるかびるんるんのチームワークは最高で、見る人たちをワクワクさせます。やなせは、実生活でも皆を喜ばせるパーティーを企画するのが大好きでした。「人生はよろこばせごっこ」という言葉に象徴されるように、「人を喜ばせること」を人生最大の喜びとしていたやなせ。そんな思いが作品の中にも現れているように感じます。

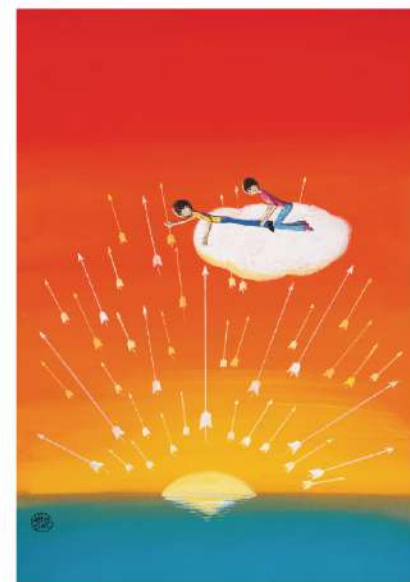
会場の最後には、そんなやなせのパーティーに参加した気分になれるフォトスポットをご用意しました。展示会の思い出に、ぜひ笑顔でポーズしてくださいね!

雑誌「詩とメルヘン」

1973年、やなせたかしは、あたらしい仕事をはじめました。「詩の雑誌を出させてもらえませんか。編集費はいりません」と、当時のサンリオの社長に提案したところ、あっさりOKをもらい、これまでにない雑誌「詩とメルヘン」はスタートしました。

「詩とメルヘン」では、宇野亜喜良、葉祥明、永田萌など、いまや日本を代表するイラストレーターたちが活躍しました。もちろんやなせも表紙やイラストなどをてがけました。読者から募集した詩や物語にプロのイラストレーターが絵を描く企画や、絵のコンクールなど、やなせはこの雑誌の編集長として、たくさんの未来の才能を育てました。なんと、ノンフィクション作家の梯久美子も、高校生の頃に「詩とメルヘン」の一読者として詩を投稿し、大人になってからはこの雑誌の編集者として働いたことがある方なんです。

この雑誌は、やなせが84歳になるまで30年間も続きました。会場最後の、熊本市現代美術館のコレクションの小展示では、「詩とメルヘン」でも活躍した葉祥明の作品が展示されていますので、どうぞお見逃しなく。

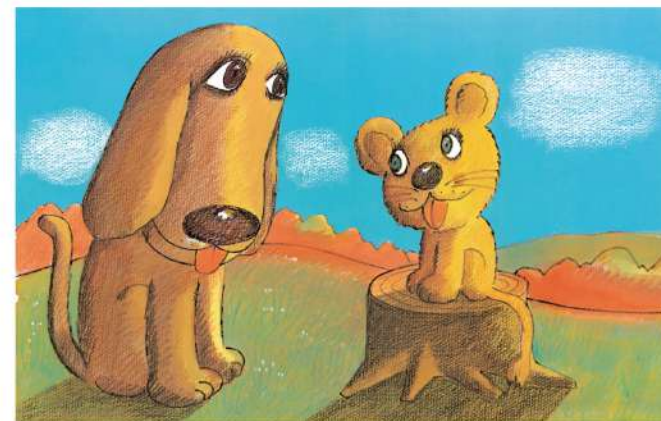


「詩とメルヘン」1978年8月号表紙絵
「ついにぼくは夜明けの光の矢をにぎったぞ」
1978年



「詩とメルヘン」1979年4月号表紙絵
「陽炎は春がくゆらすパイプのけむり」
1979年

絵本『やさしいライオン』



『やさしいライオン』 1975年

1975年、やなせたかしの2作目の絵本『やさしいライオン』が市販化されました。やなせの代表作のひとつとして長く読み継がれています。

『やさしいライオン』は、最初は漫画同人誌で登場し、その後はラジオドラマや絵本となり、さらにはアニメやミュージカルにもなりました。やなせの作品には、このようにジャンルを超えて展開する作品がいくつもあります。

『やさしいライオン』の主人公は、みなしごライオンのブルブルと育ての親であるめす犬のムクムクです。ひたすらに母のムクムクを慕うブルブルの気持ちに胸がいっぱいになる名作です。こどものころのブルブルは本当にかわいらしく、ムクムクも慈愛にみちた優しい表情で描かれていますので、ぜひじっくりとご覧ください。また、絵本全体で繰り返されるピンクとブルーの色彩が、原画ではとても綺麗でさらに効果的です。マットに広く塗った画面と、細い線を繊細に重ねた描写なども見どころです。

やなせが初めて幼児向けに描いた作品である『やさしいライオン』の絵本はたちまち人気となり、やなせは、この作品をきっかけに、絵本作家としての活動を広げていくことになりました。

「やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ」関連小企画

熊本市現代美術館コレクションにみる 絵本と漫画とものがたりの秘密

漫画家、詩人、絵本作家、イラストレーター、デザイナーなど、様々な活動を精力的に行ったやなせたかし。当館収蔵作品から、同様にマルチに活躍されているイラストレーター、絵本作家、漫画家、小説家の作品をご紹介します。

この小企画で紹介するアーティスト達、いしいしんじ、井上雄彦、こみねゆら、高浜寛、水戸岡鋭治、葉祥明、横山裕一は、イラストや絵本、漫画、小説の第一線で活躍しています。実際にやなせたかしと親しかった方もいれば、書籍やテレビを通じてしか接点のなかった方もいます。大きな共通点といえば、それぞれがみずか

らの得意とするジャンルを超えた活動に興味を持ち、何でもやってみようという行動力があり、その表現者としての熱とメッセージが作品から伝わってきて、私たちに感動を与えてくれることかもしれません。

ここでは、展覧会場で見てきたやなせたかしの多様な活動を改めて参照しながら、出品作家達とやなせの間にあるささやかな共通点をさぐることで、やなせの魅力の奥深さと、アーティスト達それぞれのユニークな魅力のきらめきの秘密を皆さまにお伝えすることができれば幸いです。

*本誌では展示作品より抜粋してご紹介いたします。すべて熊本市現代美術館蔵。

葉祥明 Yo Shomei



2004
水彩、紙
22.5cm×25.5cm

熊本城

本作は、熊本城築城400年記念の折に「熊本城と阿蘇の外輪山を描いてほしい」と、熊本市から委嘱された描き下ろし作品です。当時、この作品のイメージは、熊本市のノベルティの紙バッグ（非売品）や、市電・バス用の交通カード「TO熊カード」（2016年利用終了）に用いられました。幼い頃の遊び場だった熊本城と、熊本の盆地ならではの風景が、やさしいトーンで描かれています。

やなせたかしが雑誌「詩とメルヘン」や「いちごえほん」などで描いた、きれいな色の空のロマンティックな風景画もまた、やなせの故郷の高知の空を感じさせます。

こみねゆら Yura Komine



1999
アクリル絵の具、紙

アンデルセン童話「さよなきどり」

こみねゆらは、熊本出身の絵本作家、イラストレーター、人形作家です。本作は『小学館 世界の名作17 アンデルセン童話』収録の「さよなきどり」の挿絵群で、全16点のうち当館の収蔵する原画は9点です。作品の場面やサイズについては出版社からの指定があったとのこと。

アンデルセンの「さよなきどり」は、ヨーロッパの中国趣味(シノワズリ)の影響が色濃い、遠い昔の中国の宮廷が舞台のファンタジーです。こみねによる挿絵群には、豪華な衣装を着た宮廷の人々がたくさん登場し、群像図としての面白さもあります。印刷物でも十分に美しいのですが、原画は、繊細で緻密な筆遣いで描かれており、色石モザイクや金細工のような硬質な美しさを持ちます。やなせたかしも、多くの作品は印刷物として発表されています。印刷物でも十分に美しく魅力的なのですが、原画には、ため息が出るような色彩の鮮やかさと繊細さがあります。

熊本市現代美術館

Contemporary Art Museum, Kumamoto

www.camk.jp

ART KISS LETTER Vol.118(2025年6月)

編集：富澤治子

デザイン：apuaroot

発行：熊本市現代美術館 www.camk.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500

